

手術支援ロボ「ダ・ヴィンチXi」導入

やまなし

医療最前線

《 100 》

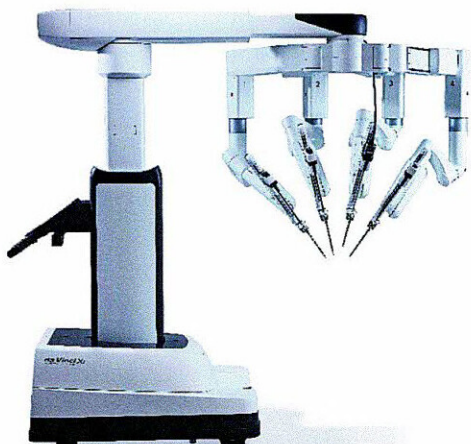
県立中央病院から

県立中央病院は腹腔鏡手術の最新型の支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を導入し、新年度から前立腺がん患者を対象に治療を始める。ダ・ヴィンチの導入は、山梨大付属病院に続き県内2例目で、最新型「Xi」の導入は甲信越地域で初めて。信州大医学部付属病院（長野県松本市）でダ・ヴィンチ手術を約50例執刀し、4月に県立中央病



横山 仁医師

「天才」の手で精密作業



導入されるダ・ヴィンチXi（インテュイティブサージカル合同会社提供）

の場合、下腹部に縦に16〜17センチ切開するが、ダ・ヴィンチはおなかに開けた、6カ所の数センチの穴から施術する。出血量は開腹に比べ10分の1程度（100ccほど）で術後の回復が比較的早い。費用は保険が適用され一般的な収入だと約10万円になる見通し。

対象は転移のない前立腺がん患者。過去、腹部に大きな手術を受けた人や、緑内障や脳動脈瘤のある人は対象外になることもあるという。

横山医師は「まずは前立腺がんでダ・ヴィンチの運用を軌道に乗せ、いずれば別の部位のがん手術にも広げられるよう、後進の育成などに当たっていききたい」と話している。

より術者が見る画像の質が向上するほか、視野の確保の幅が広がる。さらに、新開発のアーム構造により、腹部・胸部における手術部位へのさまざまな角度からのアクセスが容易になる。汎用性も高く、前立腺以外の手術にも使える見込み。

院に赴任する横山仁医師（泌尿器科）らによると、ダ・ヴィンチは患者の腹部に手術用アームや腹腔鏡を入れ、術者がモニターで患部を見ながら手術する。手で行うのと比べ、より細かく精密な動きができ、患部以外を傷つけるリスクが減る。

「Xi」は従来モデル

前立腺がんは開腹手術

曜日に掲載します

4月から第2、4木
〈橋田俊也〉